

一凡（およそ）天地開闢以来の穀直段（ねだん）、人難儀  
 村々飢人、其数不知、山々乃くず（葛）、ところ（野老）  
 根、わらひ（蕨）粉、松の木の皮、其外一切之ぬか迄  
 食ス也、尤（もつとも）日本四拾式ヶ国の飢饉なり、  
 末代迄御嘶草（はなしぐさ）と大麥、山のゆらひ、諸  
 普請場所其源をならし、流家・流  
 死人馬等迄収集、筆二まかせて書記置也

文政二己卯年

豊作二付

御城米御相場、金拾両二付式拾七俵五分替

金壹両二付 麦三石六斗

同 小麦三石式斗

同 粟三石式斗

同 大豆式石四斗